

幽霊を愛するイギリス人。

2018年11月
眞鍋由比

今年もハロウィーンに北海道からかぼちゃを送ってもらい、楽しいランタン作りを実施しました。今でこそ当たり前のようなイベントですが、私は小学生のころ、雑誌のふろくだったポスターで「ハロウィーン万聖節」を初めて知ったのでした。そのポスターを描いた漫画家のあさぎり夕さんがこの10月27日、肺炎のため62歳でお亡くなりになったと毎日新聞の11月3日の記事で知りました。繊細な画風で当時一番好きな漫画家さんでした。ご冥福をお祈りします。

さて今月のはと時計の特集は「家」です。事故物件などで幽霊がでる家は嫌がられますから、家賃も安くなります。けれどイギリスでは違ふんです。幽霊がでる物件は「歴史がある」と高く評価され、売れるんです。そして今回の『英国の幽霊伝説 ナショナル・トラストの建物と怪奇現象』シャーン・エヴァンス著 原書房 2015 は 写真も豊富にナショナルトラストの所有する、由緒ある城・館・庭園・灯台での管理人やボランティアから聞き取った話を豊富な写真とともに載せています。

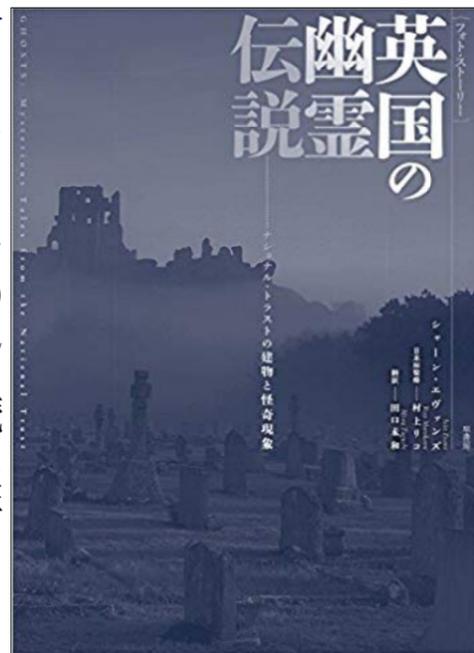
ナショナルトラスト：イギリスにおいて1895年3人の有志によって設立された民間の歴史的建造物保全・自然保護のための団体。国民のために、国民自身の手で、優れた美しい自然地域や歴史的建造物などを、寄贈、遺贈、買い取りなどで入手し、永久的に保護管理することを目的としています。ピーター・ラビットの生みの親ベアトリクス・ポターが自分の土地をすべてこの団体に寄付したことで有名です。

面白いのはその目撃談は時代を選ばない。終わりが無いそうなんです。昔からずっと同じ幽霊話が体験され伝わっているといる。そして必ずしも夜だけではない。『マイ・フェア・レディ』のジョージ・バーナード・ショーやアラビアのロレンスの幽霊。ヘンリー8世のお妃でエリザベス女王の母なのに斬首されたアン・ブーリンも灰色のレディとしてよく現れるとか。娘の肖像画の受取のサインをしたらしい。

産業革命の主演スティーブンソンは18才になるまで字も読めなかったほど貧しい家庭の子で、狭い一部屋のコテージで家族全員がくらしていたそうですが、そのコテージでも女性の幽霊が見られるそうです。

丘に向かって続く亡霊たちの葬列も見られ、コナン・ドイルがインスピレーションを得た、海賊のフランシス・ドレイクのとある伝説が『バスカーヴィル家の犬』のベースになった、その伝説の場所とか。

ふしぎなことに幽霊の話をしてくれる人たちは、悪意を感じて逃げ出さなければならぬと思った人はわずかで、たいていは「自分たちの」幽霊にある程度の誇りと尊敬を持って接している様子だったそうです。恐怖よりは戸惑いや興味をそそられるもの、それがイギリス人にとっての幽霊。もし、あなたが会いたければナショナルトラストに手紙を書いて見学許可をとれば、会いにいけますよ。



前回のこのコラムでもふれました**六甲ミーツアート2018**ですが、本校美術部が2年連続でオーディエンス大賞のグランプリを受賞しました。強敵イギリス仕込の職人さんの石の見事なバランスでできた「いしのたね」や、ポスターに採用されている、なんとも愛らしい大小さまざまの木の子猫「ほどけるとき」を抑えての受賞です。夏休みを発泡スチロールだらけにして頑張った甲斐がありましたね。おつかれさまでした。観に来てくれた卒業生のみなさまにもお礼申し上げます。